木田市長の

ど～んとコミュニケーション

真珠のように輝くまちづくりのために

vol.80

坂手町棒練り行事

毎年夏になると、各地の天王祭に招待され、出かけてゆきます。この天王祭はインドから渡来した牛頭天王（ごずてんのう）という神をまつることにより、厄除けを祈願する祭です。内陸部では、祇園祭、水または海の近くでは天王祭として続けられてきました。

話は変わりますが、坂手町に、1年も絶えることなく三百数十年続いている棒練りという行事があります。わたしも以前から、この棒練り行事というのは、名称もユニークで、どういうものなのか非常に興味を持っておりましたが、なかなか見せてもらう機会がありませんでした。しかし今年は念願がかなって、7月14日の夕刻、この棒練り行事に参加させていただきました。坂手町へ着いてわかったことは、この棒練り行事も牛頭天王を信仰しているということで、各地で行われている天王祭のひとつであるということでした。棒練奉賛会の説明によりますと、1671年頃坂手に悪疫が流行したそうです。今で言う、腸チフスらしいのですが、当時としては治すどころか、何の病気かさえ分からなかったのでしょう。一家が全員亡くなって家が途絶えてしまうというような大きな被害をこうむり、葬いをする人手さえなかったといわれています。村が途絶えてしまっては大変ということで尾張の津島神社から守り神として牛頭天王をお迎えしたのですが、そのときの様子を再現しているのが棒練りの神事です。両端に5色の色紙をつけた棒を回して神社へ練りこむところから棒練行事と呼ばれていますが、坂手町では道が狭く山車（だし）を使えなかったため、この棒を山車の車輪に見立てたものということです。

今回わたしも妻と共にこの行列に参加させていただきました。昔は女人やこども禁制ということでしたので、町内会のみなさんにわたしの妻も神社へ入っても良いのか許可をいただいて進んでゆきました。

神事が終わってから、出発点となった宿と呼ばれる家へ帰り、そこで直会（なおらい）となりました。出された酒や魚をよばれましたが、わたしたちがすんだあと村の若衆がごちそうをいただくということを後で聞きました。本当はあのご馳走は、いただかないのが慣わしではないかと思いあたりました。知らぬが仏とはよく言ったものです。

いずれにしましても、珍しい念願の棒練り行事に参加でき喜んでいますし、三百数十年の昔の風が吹いていたかのような感慨を覚えたひとときでした。

東京奮闘記！ vol.2

市では、今年度から離島振興や首都圏での観光、企業誘致のＰＲを行うため、東京へ駐在員を派遣しています。

企画財政課企画経営室　☎㉕１１０１

首都圏から見た鳥羽

東京勤務もはや4か月が過ぎ、徐々に東京での生活のリズムができてきました。

この間には各省庁の職員や企業のかた、国会議員など、さまざまな分野のかたがたとお話しをさせていただいたり、首都圏で開催される地方の物産展などを視察したりと、まず鳥羽市を含む地方に対する首都圏のかたの感覚や考え方を知ることにポイントを置いて活動してきました。

観光客誘致や企業誘致については、鳥羽市にとってメリットのある情報をいただくこともあれば、厳しいご意見をいただくこともあります。これら首都圏で得た生の情報を、市の事業に生かしていけるように担当課と連携して考えていきたいと思います。

また5～6月は、離島振興法の改正に向けた各政党の離島振興対策の会合に同席させていただいたり、国会議員や省庁など各方面への要望活動などのお手伝いをしたりと、貴重な経験をさせていただいています。

そんな中、6月20日には改正離島振興法が国会で審議され、全会一致で可決成立しました。今回の改正では、離島活性化交付金の創設など、これまでの港湾整備などハード面の財政支援だけでなく、ソフト面の事業にも重点が置かれた改正となっています。この改正離島振興法を理解し、上手く活用することで、首都圏から鳥羽の離島への観光客誘客につなげることができると思います。

まだまだ未熟な部分もありますが、これからもさまざまな視点で東京から鳥羽のことを考えていきたいと思います。